

地域防災力の向上をめざして ～災害対策の取組～

南海トラフ巨大地震が発生した場合の、[淀川区における被害想定](#)をみなさんは知っていますか？震度は6弱、そして津波が116分で大阪湾西淀川区河口に到達し、区内は最大3メートルも浸水するとされています。

災害はいつ起こるか分かりません。残念ながら、地震を含む災害の発生を防ぐことは出来ません。しかし、「災害に対する正しい知識を持つこと」「日頃から備えておくこと」で被害を最小限にすることは可能です。

区民のみなさん、家族で、ご近所さんで、そして地域で「防災」を話しあってみませんか？

1. 日頃から災害に対する「心がまえ」と「備え」を

～読んでみよう！地域防災計画～

「どんなものを備えればいいのか？」区民のみなさんからよく頂く質問です。そんな方はぜひ「[地域防災計画](#)」を見てください。災害に備える準備から避難所での生活まで、分かりやすく書いています。（大阪市地域防災計画の見直しを受け、年度内に改定を予定しています。）

災害発生時や発生直後には、防災計画やマニュアルを読んでいる余裕はありません。事前に少しでも知っておくだけで、いざという時の行動に繋がります。

ページ数が多くて読む時間が無いという方は、[巻頭資料\(pdf, 134.09KB\)](#)だけでもチェックしてみてください。

～確認しよう！防災マップ～

今年度、淀川区ではNPOとの協働により津波避難ビルも掲載した[防災マップ\(png, 1021.20KB\)](#)を作成しました。NPOがポスティングにより各世帯へ順次配布しています。また、区役所での配布や、[区ホームページへの掲載](#)もしています。いざというときのために、避難場所の確認をしておきましょう。



～参加しよう！地域防災訓練～

区内各地域では、工夫を凝らした実践的な防災訓練が実施されています。

訓練に参加することは、災害に対する備えの第1歩です。近隣で助け合えるような関係を築くことも大切なことです。

[各地域での防災訓練の日程](#)は、区のホームページでご確認ください。



木川南地域では小学校の土曜授業と合同で実施されました

2. 災害はいつ起こるか分かりません

～仕事中的大災害に備えよう～

仕事中に大地震が発生。

「家族のことが心配で家に帰りたい。でも、電車はストップして帰りたいけど帰れない…」こんな状況になったとき、あなたはどうしますか？

一般的に、自宅までの距離が10km以内であれば徒歩帰宅が可能で、10km～20kmであれば距離が1km増えるごとに10%ずつ帰宅可能者が減っていくと言われています。歩いて帰れるとはいえ、どのルートを通れば自宅にたどり着くのか、日頃から確認することが大切です。



9月5日(金)には、新御堂筋沿線で「帰宅困難者体験訓練」を実施しました。(主催：災害時帰宅困難者体験訓練訓練実行委員会、共催：淀川区、豊中市)

通勤、通学されているみなさん、大災害時に帰宅困難にならないためにも備えを万全にしておきましょう。

よどマガ! 8月号 15面に「[「仕事中に大地震に備える心得5カ条」を掲載\(pdf, 858.05KB\)](#)していますので、ぜひご一読ください

3. 新大阪駅及び駅周辺の帰宅困難者対策について

大地震などの大規模災害時には、鉄道等の交通機関がストップし、歩いて帰ろうにも、道路の通行不能により帰ることができない「帰宅困難者」が多数発生することが想定されています。

実際に、東日本大震災では、首都圏において約515万人(内閣府推計)の帰宅困難者が発生し、特にターミナルには人が集中して、大混乱に陥りました。

淀川区には、JR、地下鉄を有する巨大ターミナルである新大阪駅が存在しています。新大阪駅は新幹線の始発、到着駅でもあり、遠距離帰宅困難者の発生も想定されていることから、なんば駅、天王寺駅、大阪駅などのターミナルとは違った観点からの対策を東淀川区と協働で進めます。



4. はい、よろこんで。防災講座受付中!

防災担当職員が地域などへ伺って、大人向け、子ども向け、それぞれの内容で実施する防災講座。

事前に日時や参加人数や内容など調整させていただきますので、お気軽に市民協働課(防災担当) ☎6308-9406までご連絡ください。



◎みなさんからのご意見・ご要望をお聞かせください!

地域防災力を向上させるため、市民協働課(防災担当)は地域のみなさまと様々な取り組みを進めます。災害時地域協力事業所、津波避難ビルも随時募集しています。

問合せは、淀川区役所政策企画課(☎6308-9404 E-mail: tl0009@city.osaka.lg.jp)まで。